

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 寄生生物による生物機能創発機構の解明と制御への基盤研究

2. 研究代表者： 佐藤 拓哉（京都大学 生態学研究センター 准教授）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、寄生生物による「宿主操作」を生物学における新たな研究モデルに据え、動的な生物機能の利用に破壊的イノベーションを引き起す知識基盤を創出することを目指すものである。

フェーズ1ではハリガネムシの遺伝子発現解析を実施し、宿主カマキリからの大規模な水平伝播遺伝子群が宿主操作に関与している可能性を見出すといった大きな成果を上げている。論文を主とする外部への成果発表も順調である。フェーズ2の研究計画においては、フェーズ1で得られた研究成果をもとに、偏光受容操作の機能評価を中心に、拡がりがある課題に挑戦している。得られたサンプルの解析を進めて偏光受容操作の鍵となるエフェクターを同定できれば、非常に大きな成果になるものと期待される。

以上